

京都

ケアマネ・ポート

KYOTO CARE MANE PORT

Contents

- 2 実働ケアマネジャー大規模調査結果報告
- 3 会員管理委員会
- 4 ケアマネジャーとして知っておきたい2018年度診療・介護報酬同時改定(その1)
——在宅の課題は効率化と介護との棲み分け——
- 6 委員会の活動紹介
- 7 一般社団法人 日本介護支援専門員研究大会
第16回近畿ブロック研究大会in兵庫
- 8 公益社団法人 京都府介護支援専門員会理事選挙について
- 10 平成29年度京都府介護支援専門員会企画研修
年間スケジュール(予定)
- 11 住所・氏名・勤務等の異動届
- 12 事務局からのお知らせ／編集後記

実働ケアマネジャー大規模調査結果報告

平成27年度までの京都府の実務研修修了者は15,000人を超えておりますが、京都府内で介護支援専門員として何人実働しているのかは不明でした。このたび当会は、京都府内で実働する介護支援専門員数および会員比率（組織率）の調査を実施いたしましたのでご報告いたします。

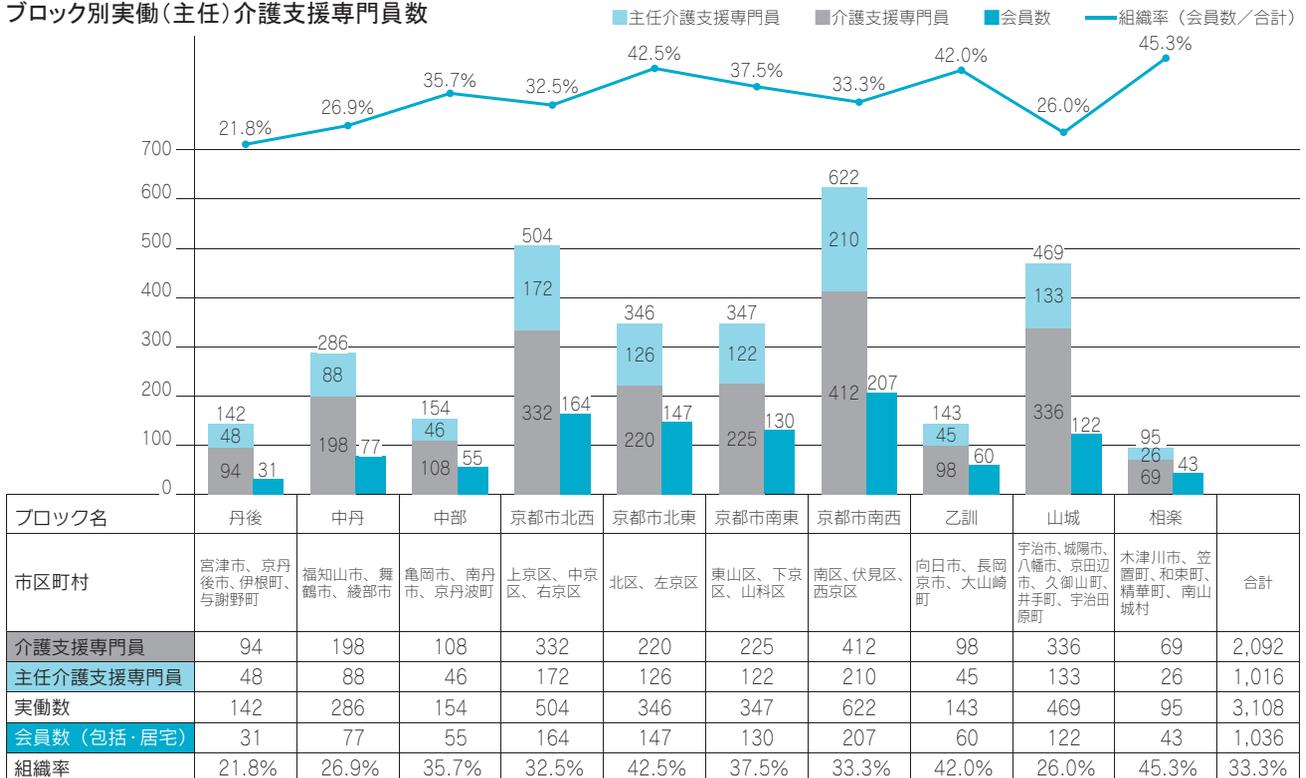
公益社団法人である当会は、広く府民への社会貢献活動を行うことはもとより、会の活動の透明性と会員のための有益な活動を旨としており、会員管理委員会の活動には職能団体の組織強化があります。言い換えれば、会員の獲得が組織強化に繋がり、介護現場でケアマネジメントを実践する介護支援専門員が安心して業務にあたるよう、京都府や京都市をはじめとする市町村への各種委員の派遣や協議を通して、制度の充実を図っています。言うまでもなく、ケアマネジメントの質の向上にも他の委員会と協働して様々な活動を実践しております。

さて、今回、平成12年11月に当会の前身である京都府介護支援専門員協議会が設立されて以降、念願であった当会の会員の会員比率（組織率）（以下「組織率」という

の調査に昨年10月に着手いたしました。今回は、京都府下の居宅介護支援事業所（以下「居宅」という）と地域包括支援センター（以下「包括」という）で実務に従事している介護支援専門員、主任介護支援専門員の実数を10ブロックに分けて、稼働するすべての居宅および包括に確認させていただきました。

- 対象事業所数865件（回収865件、回収率100%）
- 介護支援専門員数2,092名
主任介護支援専門員数1,016名、合計3,108名
- 居宅及び包括に勤務する当会会員数1,036名
組織率 = 1,036名 / 3,108名 = 33.3%

ブロック別実働(主任)介護支援専門員数



調査結果の分析

ブロック別組織率および全会員数に対する居宅・包括の割合については下記の順番となる。

| 組織率（会員数／実働数） | | |
|-----------------------------------|-------|-------|
| ① | 相楽 | 45.3% |
| ② | 京都市北東 | 42.5% |
| ③ | 乙訓 | 42.0% |
| 相楽ブロックにおいては実働する介護支援専門員の約半数が会員である。 | | |
| 居宅及び包括の会員数の割合（会員数／全会員数） | | |
| ① | 乙訓 | 75.0% |
| ② | 山城 | 72.6% |
| ③ | 中丹 | 70.0% |
| 乙訓ブロックにおいては4人のうち3人が居宅・包括勤務である。 | | |

今回の調査により、京都市内の居宅及び包括の実働数が1,819名、内会員数は648名で組織率は35.6%、京都市内の会員数は961名であり、居宅および包括に占める会員数は67.4%という結果となった。

京都市内の組織率は、府内全体の組織率より+2.3%、居宅および包括の会員数の割合は-0.6%と、母数が多い分、ほぼ京都府全域の結果と相似していることがわかった。

| 京都府・京都市実働数比較 | | | | | |
|--------------|-------|-------------|-------|-------|-------|
| | 実働数 | 居宅・包括 会員 | 会員数 | 実働数比 | 会員数比 |
| | ① | ② | ③ | ②／① | ②／③ |
| 京都市4ブロック計 | 1,819 | 648 | 961 | 35.6% | 67.4% |
| 京都府全体計 | 3,108 | 1,036 | 1,523 | 33.3% | 68.0% |
| 京都府比 | | | | 2.3% | -0.6% |

以上の結果をもとに、当会の中長期目標（5ヵ年計画）にて掲げる目標会員数3,000名の実現可能性を検証してみた。

今回の調査で、居宅および包括で実働する会員が占める比率が68%（1,036名／1,523名）
京都府内の居宅および包括の実働数が3,108名であることから、京都府内の実働介護支援専門員総数は下記のとおり4,570名と推定できる。

$$\text{総数} = \frac{(\text{府内の居宅・包括の実働数}) 3,108 \text{ 名}}{(\text{当会の居宅・包括で実働する会員比率}) 68\%} = 4,570 \text{ 名}$$

目標会員数が3,000名であれば、実に組織率は65.7%であり、これは非常に高い目標値であることがわかった。もちろん、高い組織率を目指すことは大事なことであるが、実現可能性からすると、まずは組織率強化の目

標を50%以上とするのがよいのではないかと？ 4,570名の50%である約2,300名が目標会員数として妥当なのではないかと考えた。

この目標値については、精査したうえで、事業計画などにも反映させていきます。
最後に、100%という驚異の回収率調査にご協力いただきました事業所の皆さま、ブロック委員の皆さまには、会員管理委員会一同、心より感謝申し上げます。

（会員管理委員会）

会員管理委員会

会員管理委員会は①会員獲得②会員管理③会員相談の3本柱で活動をしています。

①会員獲得 職能団体として会員数を増やすことは永遠の目標であり課題です。企画研修費用の割引など会員のメリットを唱えるだけでなく、今後の介護保険制度におけるケアマネジャーの存在意義を確実にしていくためにも職能団体の組織率を高め、会員一人ひとりの声を集めて力にしていけることが大切です。委員会では各ブロックに出向いての当会紹介のプレゼンテーションや新たな会員特典、入会案内パンフレットの作成などを検討しております。

②会員管理 会員の皆様の所属や住所の管理、実働している会員数の把握などをブロック委員の協力のもと行っています。皆様の所属、住所等に変更がありましたら事務局へご連絡願います。

③会員相談 会員・非会員問わず、また広く府民の方からのご質問・ご相談にも対応しています。27年度は50件以上の相談対応を行いました。いただいた相談・質問を担当理事3名が分担し、同じケアマネジャー業務をしている仲間として一緒に考え、解決していくというスタンスで臨んでいます。相談内容は制度改正に係る質問や運営基準に関すること、自己のケースについてのお悩みなど様々ですが、日々のケアマネジメント業務に真摯に向き合っておられる姿を感じます。いただいた疑問やご意見は、当会が京都府や京都市との意見交換会や事案交渉の際にケアマネジャーの声として反映いたします。

会員管理委員会は今後も地道な活動を続けてまいります。委員会活動に参加していただける会員様を大募集中です。

（常任理事 樋口 孝子）

ケアマネジャーとして知っておきたい 2018年度診療・介護報酬同時改定（その1） ——在宅の課題は効率化と介護との棲み分け——

高まる在宅医療のニーズに次期改定でも効率化の視点 ——在宅医療の課題に注目——

1月11日に開催された中央社会保険医療協議会総会で厚生労働省は、議題として在宅医療を取り上げ、新たなサービス提供の在り方や地域の状況、個々の患者の状態、医療内容、住まい・住まい方などを踏まえた評価の在り方についてどう考えるかを提案している。厚労省は課題の抽出に向けて在宅医療を取り巻く状況について説明した。厚労省資料によると（1）現状では、高齢者の増加に加え、医療介護の支え手の減少も見込まれている。（2）医療機関で死亡する患者が多数を占めている一方、看取りや在宅医療を含めた療養の多様なニーズは一層高まるとみられている。（3）在宅医療の提供体制では、対応可能な医療機関がおおむね増加傾向にあることや、訪問看護ステーションの数や規模が増加・拡大していることを提示した。

注目すべきは「在宅医療の質と量はもとより、効率性も確保」という文言だ。すなわち高齢者人口の増加により、今後訪問診療など在宅医療を受ける患者が増大する。今のままの報酬では、医療費増大に繋がる。訪問診療を実施する医療機関や訪問看護ステーションなど在宅サービス提供施設も増加しているとの現状を課題にしたことである。このことから効率性を確保するためには、訪問診療などの単価を引き下げるという結論にもなりえる。サービス提供施設が増加する反面、患者の医療提供密度も異なり、高齢者以外での在宅人工呼吸器使用患者や難病患者も増加している。ようするに在宅患者の医療ニーズは多様化していることに対して、サービスの質をいかに確保させるかも論点として提示されている。

参考 在宅医療の課題と論点（案）

【課題】

- 今後も高齢者数の増加が続くことが想定され、2025年（平成37年）には、75歳以上人口比率が18%に達すると推計されている。高齢者の単独世帯や夫婦のみ世帯の増加に加え、人口構造の変化による医療介護の支え手の減少も見込まれている。
- また、医療機関で死亡する患者が多数を占めている。一方で、看取りや在宅医療を含めた療養の多様なニーズは一層高まるものと考えられる。
- 在宅医療に対応可能な医療機関は概ね増加傾向で、医療機関の大部分は診療所が占めている。訪問看護ステーションの数や規模は増加・拡大している。
- 在宅医療を受けている患者の要介護度や、訪問診療や訪問看護の必要な理由、疾患名など患者の状態は多様であり、患者によって医療の提供密度も異なっている。
- 在宅で人工呼吸器等の医療を受けている小児が増加傾向にある。
- 在宅歯科医療、在宅薬剤管理の提供量も概ね増加傾向にある。
- 2016年（平成28年度）度診療報酬改定では、重症度や居住場所に応じたきめ細やかな評価、在宅医療専門の医療機関に係る要件の明確化、遠隔モニタリング等を活用した指導管理の評価等を行った。



○在宅医療の質と量はもとより、効率性も確保しつつ、多様化する患者のニーズに応えることができるような新たなサービス提供のあり方や、地域の状況、個々の患者の状態、医療内容、住まい・住まい方等を踏まえた評価のあり方についてどう考えるか。

厚生労働省の効率化重視の論点提示に反論 ——訪問看護の医療と介護の棲み分けも提案——

中央社会保険医療協議会総会の議論で診療側委員は、在宅医療のニーズが増加しており、効率性が求められている現状で「意図的に在宅医療に誘導しているように感じる」と指摘した。在宅医療のみにこだわらず、病院や施設を組み合わせた受け皿を確保することが必要だと主張し、機能分化と連携で効率化を図るべきだと提言した。支払い側委員は、在宅療養支援診療所の届け出医療機関数が横ばいになっている原因を厚労省に質問した。厚労省医療課長は「原因は必ずしも特定できているわけではない」と述べ、検証調査を通して検討すると回答した。診療側委員も、在宅医療に取り組む医療機関が「おおむね増加傾向」とした資料に違和感を示した上で、一部現場では「心配したことが起こりつつある」と指摘。本来の在宅医療の在り方に沿わない在宅医療専門医療機関の実態を調査するよう求めた。

他の診療側委員からは、褥瘡やバルーンカテーテルの

処置などで各診療科の医師が連携する場合があります、複数の医療機関が連携して在宅医療を提供した際のルールが明確でないと疑問を示した。少数医師の診療所が在宅医療に取り組むためにも「できれば速やかに対応していただきたい」と要望。厚労省医療課長は「改定を待たずして対応できるならば対応し、影響が大きくて改定しなければということであれば相談させていただく」と回答している。

このほか病院団体選出の診療側委員は、高齢者の状態の変化に対応できる弾力的な制度設計が必要とし、介護との連携強化も図るべきだと主張。専門委員である看護協会選出委員は、医療保険と介護保険にまたがる訪問看護の在り方を整理する必要があると発言した。

以上の発言から今後さらなる「質の評価」や「介護との棲み分け」「介護との連携」などが同時改定の論点として提示されるだろう。

入退院時にケアマネジャーが関与し、医療機関と連携を図ることが重要 ——介護保険部会意見書にも注視——

昨年12月上旬に社会保障審議会・介護保険部会がとりまとめた「介護保険制度の見直しに関する意見書」にも「医療との連携」を重視すべきと強調している。具体的には「今後、重度者や医療の必要性が高い利用者が増えていくと考えられることから、医療ニーズを踏まえた適切なアセスメントや、ケアマネジメントを行う際の医療との連携が重要となる。例えば、医療機関へ入院した人が退院後に円滑に在宅生活に移行するためには、入退院時にケアマネジャーが関与し、医療機関と連携を図ることが重要であるが、その取組が必ずしも十分ではないとの指摘もある」とした。現在の介護報酬では、ケアマネジャーが病院に出向いて情報共有することが要件化されている。しかしながら、ケアマネジャーが知らない間に

入院し、気づけば退院していたという事例も少なくはない。さらに2016年度診療報酬改定では病院の退院支援職員が居宅介護支援事業所などに出向いて情報共有することも、追加見直しされ報酬も引き上げられた。これらの現状や算定要件、報酬の一本化なども、同時改定の議論となるはずだ。また、病院の退院支援職員は、入院患者に担当ケアマネジャーがいる場合、必ずケアマネジャーに連絡し、退院1週間前には、ケアマネジャーに退院カンファレンスへの参加を呼びかける。ケアマネジャーも必ず参加するというような要件化や算定要件見直しなども想定できよう。

(顧問／メディカル・テン代表 宮坂 佳紀)

委員会の活動紹介

京都府介護支援専門員会には12の委員会があり、当会の会員である委員を中心に各委員会が活動しています。今回は、そのうち3つの委員会を紹介いたします。委員会活動に参加ご希望の会員様は、どのような活動をしているのか参考にいただければと思います。

災害対策委員会

当委員会は、平成28年度、特に二つの項目について活動してきました。一つはブロック研修に向き、災害についてケアマネジャー自身が身近に考え、備えるよう働きかける事です。昨秋、京都市南東ブロック研修会において、地図を活用した図上訓練を実施し、会員から「地域に潜むリスクを会員内で共有することは、ケアマネジメントプロセスの延長線上において必要不可欠だ」という声を聴けたのは、一つの成果でもありました。(写真は当日の図上訓練の様子)

二つ目は、マニュアル及び本会の災害時の体制の整備です。京都府内外の災害時における本会の対応について、一つひとつ言葉や他団体との連動した動きの整理をしています。京都府の中でも抱えるリスクは多岐にわたり、古い家屋の密集地域や観光地、山間部で河川がない地域や原子力防災のUPZ地域(原子力発電所から概ね30km圏)では、それぞれ備えも全く異なるのが実情です。それらを考えた時、ケアマネジャーとして地域単位での災害を想定した訓練を行い、そしてそれを地域や他職種を巻き込んで繰り返す事が重要であると考えます。今年度は委員が研修や研鑽を重ね、当委員会としてブロック単位での研修、啓発をできるよう準備していますので、是非研修を企画される際にはお声掛けいただければと思います。



(常任理事 柴田 崇晴)

受託研修委員会

当委員会は京都府から委託を受けている法定研修(再研修・実務未経験者研修、実務経験者更新研修〔課程Ⅰ〕、実務経験者更新研修〔課程Ⅱ〕、主任介護支援専門員研修、主任介護支援専門員更新研修)を実施しています。厚生労働省が示すガイドラインに基づいた内容で研修をおこない、介護支援専門員の知識、技能の習得・確保及び資質の向上に寄与しています。平成28年度は、100日を超える法定研修を開催し、約1,400名が受講されました。

また、京都市からは京都市ケアプラン研修を受託、年度ごとのテーマで研修を実施し、昨年度は「リハビリテーション」を学びました。他にも補助金事業として「認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー育成事業」や「看取りサポートの人材養成研修～最期まで自分らしく生きる」を開催しています。

当委員会では、これらの研修を運営するにあたり、研修ごとにワーキンググループを立ち上げ、メンバーの方々には研修内容の検討や研修の講師として協力していただきながら取り組んでいます。ワーキングのメンバーは、当会に講師登録している会員の皆様です。

今後も講師の養成や研修体系構築に向けての取り組みを行い、新たな研修体系のもとで介護支援専門員の質の向上を図ることができる環境を整えていきたいと考えております。また、受講された介護支援専門員の方々が、研修で学んだことを実務に活かし、より質の高いケアマネジメントを行い、利用者の自立支援、地域包括ケアの実現のためにご活躍いただけることを祈念しています。

(常任理事 堀田 裕)

一般社団法人 日本介護支援専門員研究大会 第16回近畿ブロック研究大会 in 兵庫

今年度より、近畿介護支援専門員研究大会が表題のように呼称を変え平成29年3月11日(土)～12日(日)ANAクラウンプラザホテル神戸にて開催されました。テーマは「人をつなぐ 地域を結ぶ ～未来を紡ぐケアマネジメント～」です。

開会式に引き続き、まずは基調講演。厚生労働省 老健局 振興課長 三浦 明 氏による「平成30年度医療と介護の改革に向けて」

次の世代に社会保障制度をどう繋いでいくのか？ が改革の根底にあるテーマです。病床の再編と削減の受け皿である在宅医療をバックアップするためへの地域包括ケアの整備(充実)が急務であるのは例示された先進事例などからも見て取れました。また、地域共生社会といったキーワードの強調などは保険者機能の強化等、制度上の地方分権化の波に乗ってサービス自体もこれまでのフォーマルサービスとインフォーマルサービスの線引きが変わっていくことを示唆しています。我々ケアマネジャーにとっては総合事業移行による介護予防の横展開をどう受け止めるか？ いよいよ「あり方検討会での課題が問われるときが到来したよ」といったメッセージにも取れました。



開会式の様子(大会長 垣内 達也 氏)

記念講演は「ボールをつなぐ ケアをとおして心をむすぶ～ラグビーフットボールに学ぶケアマネジメント～」と題し、神戸親和女子大学発達教育学部ジュニアスポーツ教育学科准教授 平尾 剛 氏 VS 公立大学法人福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科教授 奥西 英介 氏の対談形式で、ラグビーとケアマネジメントと言った一見すると無関係とも取れる両者を対比してケアマネジメントの本質を探ります。ケアマネジメントにおける個々の尊厳や個別性への配慮をラグビーの持つ自由性、ルールに含まれる矛盾に例え、老いのプロセス～加齢に伴う心身機能低下を自立させなければならないケアマネジメントの難しさを、種明かしのように説かれていました。

引き続いてのシンポジウムは「未来へコミュニケーションを紡ぐ～人間力と地域の技～」

コーディネーターは関西学院大学人間福祉学部教授 池埜 聡 氏

シンポジストは大和ハウス工業株式会社ヒューマン・ケア事業推進部ロボット事業推進室室長 仙谷 幸法 氏

元大塩天満宮総代 杉田 利典 氏

望海在宅介護支援センターセンター長・兵庫県介護支援専門員協会明石支部支部長 永坂 美晴 氏

といった異色の顔合わせです。

ロボット介護などが待つであろう未来社会に、旧来の祭事などで結びつきを持つ地域やその人々をどう「紡いで」いくか？ 一見強引そうにもとれる企画でしたが、我々ケアマネジャーはその役割を担う者として物事がきちんと「伝わる」ように「伝える」力を磨かなければ、と再確認した次第です。

1日目の締めくくりはお約束の懇親会です。会場の神戸らしさが全面に出るジャズの生演奏、サンバチームや次期開催の滋賀県介護支援専門員連絡協議会の会場を一体にしたパフォーマンスと大盛り上がりの大団円でした。

2日目の分科会は6分野(認知症、家族支援、教育、医療連携、地域資源、自立支援)での構成でしたが、今年の特徴は発表希望者が急増したこと。70名を超える希望者を査読の結果58演題に絞り込むという異例の展開でした。京都府は当会顧問である福富 昌城 氏をコメンテーターに迎え、第6分科会 自立支援分野を担当しました。8演題の発表があり、単なる個別事例の振り返りのなものだけでなく、収集データをもとにした解析などハイレベルな内容で、学術的なケアマネジメントの醸成を実感することが出来るものでした。また、福富先生のアドバイスで今回の研究発表のさらなる深化と次回の発表に期待をもたせる引き締まった分科会になったと自負しています。



分科会の様子

記念講演の例えではありませんが、制約がある中で利用者の個性を尊重する工夫はケアマネジメントの自由性に他なりません。ラグビーチームのように阿吽の呼吸でパス回しするケアチームが作れるケアマネジャーになりたい。そう思わせる熱い2日間でした。

発表、ご参加の皆さまお疲れ様でした。今年度の京都府介護支援専門員研究大会並びに滋賀県での近畿ブロック大会、石川県の全国大会でまたお会いしましょう。

(副会長 松本 善則)

公益社団法人 京都府介護支援専門員会 理事選挙について

平成29年度は理事改選の年です。当会の理事は法人の代表として介護支援専門員の資質の向上や社会的地位の確立を図るため、当会の事業運営の中心になり、その業務を効率的に執行する任務が与えられています。当会の事業目的に沿って組織の強化・発展を実践できる方、組織運営に積極的に参画していただける方にぜひお力添えをいただきたく、立候補をお待ちしております。

理事の主な活動

1. 京都府・京都市・関係機関の委員会等への出席
(京都府介護保険審査会・京都市高齢者施策推進協議会・京都市介護認定審査会・京都府医療推進協議会・京都府/京都市との意見交換会など)
2. 日本介護支援専門員協会支部活動
(伝達研修事業への参加、介護支援専門員の意見集約協力など)
3. 理事会・常任理事会への出席
職務の執行および報告
4. 規則の制定、事業計画や収支予算(補正予算を含む)の承認
5. 当会委員会活動、当会実施研修への出講及び外部団体への講師派遣など

理事選挙のしくみ

理事には選出理事とブロック推薦理事があります。選出理事は、当法人正会員3名の推薦による立候補により総会で選出されます。ブロック推薦理事はブロック委員長及びブロック委員の合議により正会員の中から推薦され、各ブロック委員の代表として会の運営にたずさわります。

理事の定数など

| | |
|----------------------|---|
| 理事 10名以上 30名以内 | 選出理事 |
| | 内 会長1名 副会長3名 常任理事10名以内 |
| | ブロック推薦理事 |
| | 丹後/中丹/中部/京都市北西/京都市北東/ 京都市南東/京都市南西/乙訓/山城/相楽 |

選出理事、ブロック推薦理事のほかに、一般社団法人京都府医師会をはじめとする13の関係団体から特任理事を推薦していただいております。



理事選挙の公示・立候補受付 について

公益社団法人京都府介護支援専門員会定款第25条、理事・監事細則第3条、理事選挙管理規程第2章に基づき、6月17日(土)に理事選挙を実施いたします。つきましては、次のとおり公示・立候補の受付をいたします。

以下、公益社団法人京都府介護支援専門員会定款＝定款
公益社団法人京都府介護支援専門員会理事・監事細則＝細則
公益社団法人京都府介護支援専門員会選挙管理規程＝規程

理事選挙公示

1. 選挙日・会場

平成29年6月17日(土)
登録会館(京都市中京区)
(公益社団法人京都府介護支援専門員会平成29年度定時総会時実施)

2. 定数

選出理事 7名以上

3. 選挙人

選挙日(平成29年6月17日(土))における定款第11条に定める当会の代議員。

4. 選出方法

「選挙管理規程」に基づき選出し、定時総会で選任。

5. 立候補者について

- (1) 選挙公示日平成29年4月5日(水)時点において、定款第5条第1号に定める正会員であること。
- (2) 正会員3名からの推薦があること。
- (規程第11条)

6. 推薦者について

- (1) 定款第5条第1号に定める正会員であること。
- (2) 推薦者が推薦できる立候補者は1名とする。
- (3) 推薦者は、理事に立候補することができない。
- (規程第14条)

7. 立候補受付期間

平成29年4月10日(月)～平成29年5月8日(月)(郵送の場合当日消印有効)

・立候補者公示：平成29年5月24日(水)

8. 立候補受付方法

下記の所定の様式(4種類)を公益社団法人京都府介護支援専門員会ホームページの会員ページからダウンロードし、必要事項を記入のうえ、立候補受付期間内に提出してください。<<http://www.kyotocm.jp/>>

- (1) 立候補届出書(様式・理1)
- (2) 立候補者推薦届出書(様式・理2)
※正会員3名分
- (3) 履歴書(様式・理3)
- (4) 略歴・立候補理由(様式・理4)

9. 提出先

所定の様式は、封筒に「氏名」・「自宅住所」・「理事選挙立候補届出書在中」と記載の上、下記送付先に郵送してください。(事前連絡の上持参も可)

【送付先】

〒604-0874京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375
ハートピア京都7階
公益社団法人 京都府介護支援専門員会
選挙管理委員会宛

理事からのメッセージ

私が理事に就任した頃は、経験豊富な先輩方が多く、期待されている若い発想や改革の一端を担う行動力を発揮することよりも、まずは理事の役割を理解し、種々の場に慣れることに一生懸命でした。

不慣れな分野も多いのですが、先輩諸氏よりも自分の方が得意な分野もあることに気づき、他の理事と協力し合う姿勢が不可欠であると考えました。

仕事との両立は難しいですが、やりがいを感じています。皆様も自信のあること、得意なこと、好きなことが1つはあると思います。その1つを結集すれば、最高の理事会になると確信しております。ぜひ、みなさまのお力をお貸しください。史上最強の理事会になるよう、一緒に汗を流していただける方を心よりお待ちしております！

平成29年度京都府介護支援専門員会企画研修 年間スケジュール(予定)

| 研修名 | 講師 | 開催日 | 時間 | 開催場所 | 備考 |
|---------------------------------------|--|-----------------|-----------------|----------------------|--------------|
| ケアマネジメントスキルアップコース | | | | | |
| 運営基準に沿った居宅介護支援の実務 | 医療法人三幸会 生活サポートセンター部長 井上 基 氏 | 2017 4/14 | 18:30～ 20:30 | ハートピア京都 3階大会議室 | |
| ケアマネジャーとして知っておきたい 平成30年度同時改定に向けた動き | メディカル・テン 代表 宮坂 佳紀 氏 | 2017 4/20 | 18:30～ 20:30 | ハートピア京都 3階大会議室 | 会員限定 (無料) |
| 課題整理総括表の理解と活用方法 | 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター シニアマネジャー 齊木 大 氏 | 2017 5/13 | 14:00～ 17:00 | 登録会館 2階大ホール | |
| 課題整理総括表の実践活用のノウハウを学ぶ ～基本から応用まで～ | 一般財団法人仁風会 財団本部 介護保険・企画・研修・教育担当 部長 川添 チエミ 氏 | 2017 5/20 | 10:30～ 16:30 | 舞鶴西総合会館 3階会議室 | |
| ケアマネジャーが出来る災害への備え | 公益社団法人京都府介護支援専門員会 災害対策委員会 | 2017 6/2 | 14:00～ 16:30 | ハートピア京都 4階第4・5会議室 | |
| 失語症状と失語症の方への支援について | 一般社団法人京都府言語聴覚士会 | 2017 6/12 | 14:00～ 16:30 | ハートピア京都 4階第4・5会議室 | |
| 「難病」と医療連携 ～訪問看護師との連携を学ぶ～ | 一般社団法人京都府訪問看護ステーション協議会 副会長 松久保 真美 氏 | 2017 7/13 | 14:00～ 16:30 | ハートピア京都 4階第4・5会議室 | |
| 生活困窮者の実態、 そしてケアマネジャーにできること | 花園大学 社会福祉学部 教授 吉永 純 氏 | 2017 7/24 | 14:00～ 16:30 | ハートピア京都 4階第4・5会議室 | |
| ケアプラン点検を学ぼう | 一般財団法人仁風会 財団本部 介護保険・企画・研修・教育担当 部長 川添 チエミ 氏 | 2018 1/29 | 14:00～ 16:30 | ハートピア京都 3階大会議室 | |
| 今どきの病院・病棟機能 ～なくてはならない連携～ | 京都民医連中央病院 事務次長 患者総合サポートセンターセンター長 患者総合支援部門部長 甲田 由美子 氏 | 2018 2/16 | 10:30～ 16:30 | ハートピア京都 4階第4・5会議室 | |
| 対人援助の基本 ～その人らしいケアプランのために～ | 兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人 氏 | 2018 3/14 | 14:00～ 16:30 | ハートピア京都 4階第4・5会議室 | |
| 主任ケアマネジャーフォローアップ研修 | | | | | |
| ファシリテーター養成講座 | 花園大学 社会福祉学部 教授 福富 昌城 氏 | 2017 5/28 | 10:00～ 16:00 | 京都社会福祉会館 4階ホール | 会員限定 |
| 研究発表を学ぶ、京都大会プレ大会 | 花園大学 社会福祉学部 教授 福富 昌城 氏 | 2017 6/10 | 10:00～ 16:00 | 登録会館 2階大ホール | |
| | | 2017 8/27 | 10:00～ 16:00 | ハートピア京都 3階大会議室 | |
| スーパービジョン | 社会福祉法人京都福祉サービス協会 高木 はるみ 氏 | 2017 9/27 | 10:00～ 16:00 | ハートピア京都 4階第4・5会議室 | 会員限定 |
| 研究大会 | | | | | |
| 第6回京都府介護支援専門員研究大会 | — | 2017 10/28 | 10:00～ 16:00 | メルパルク京都 | |
| 日本介護支援専門員協会 第17回近畿ブロック研究大会 | — | 2018 3/17-18 | — | 滋賀県立文化産業 交流会館 ほか | |
| 第11回日本介護支援専門員協会 全国大会 | — | 2017 8/26-27 | — | 石川県立音楽堂 ほか | |

※上記企画研修は、京都府が「主任介護支援専門員更新研修」の受講要件として認めている研修です。

※上記予定の研修は変更になる場合があります。

※各研修のお申込みにつきましては、詳細が決まり次第ホームページにてご案内いたします。



京都府介護支援専門員会会員登録
住所・氏名・勤務先等の異動届

様

(届出日: 年 月 日)

| | | | |
|------|--|----|--|
| 会員番号 | | 氏名 | |
|------|--|----|--|

1. 氏名の変更

| | | | | | |
|---|------|--|---|------|--|
| 新 | ふりがな | | 旧 | ふりがな | |
| | 氏名 | | | 氏名 | |

2. 住所の変更

| | | | | | |
|----|-------------|------|---|---------------|---------------------------------|
| 新 | 住所 (自宅) | 〒 - | | | |
| | 電話 (自宅) | - | - | FAX (自宅) | - |
| | 携帯電話 | - | - | メールマガジン 配信 | 希望する ・ 希望しない ※どちらかに○をお願いします。 |
| | メール アドレス | パソコン | | | |
| 携帯 | | | | | |

3. 勤務先の変更

| | | | | | |
|---|-----------------|-------|--|--------------|---|
| 新 | 勤務先 | 名称 | | | |
| | | 事業所番号 | | | |
| | | 種別 | 居宅介護支援事業所 ・ 介護老人福祉施設 ・ 介護老人保健施設 ・ 介護療養型医療施設 地域包括支援センター ・ 小規模多機能型居宅介護 ・ 認知症対応型共同生活介護 特定施設入所者生活介護 ・ その他() | | |
| | 介護支援専門員としての勤務状況 | | <input type="checkbox"/> 現任 <input type="checkbox"/> 非現任 <input type="checkbox"/> 一度も勤務していない | | |
| | 所在地 (勤務先) | 〒 - | | | |
| | 電話 (勤務先) | - | - | FAX (勤務先) | - |

退会届

4. 資格の変更

1) 介護支援専門員番号(8ケタ)

(※未登録の方は以下にご記入ください)

| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|

| | | |
|-------|-------------------------------|------------------------------|
| 証書交付日 | 年 月 日 | |
| 交付自治体 | <input type="checkbox"/> 京都府 | ※左記のあてはまるものに チェックをお願いします。 |
| | <input type="checkbox"/> 上記以外 | ※都道府県名を以下にご記入ください。 () |

届出はこちらまでお願いします。



公益社団法人京都府介護支援専門員会 事務局

- ・ FAXの場合: 075-254-3971
- ・ 郵送の場合: 〒604-0874

京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375
京都府立総合社会福祉会館(ハートピア京都)7階

事務局からのお知らせ

■ 会員証について

平成29年3月15日(水)までに平成29年度会費を納入いただいた会員様には会員証を同封しております。それ以降にご入金の方は、ケアマネ・ポート55号(10月号)に同封いたします。また、会費振替口座未登録の会員様には「預金口座振替依頼書」を55号(10月号)に同封いたします。

平成29年度会費未納の会員様につきましては、会員証の発行と今後のサービスが停止となりますのでご注意ください。会費の振込先は末尾に記載しております。

■ 「平成29年度京都府介護支援専門員研修のご案内」について

「平成29年度京都府介護支援専門員研修のご案内」冊子ができあがりしました。府内事業所の管理者様へ送付しておりますが、今年度は会員の皆様にも同封いたしました。ぜひご活用ください。

(毎年度実施する会員サービスではございません)

編集後記

新年度になり、皆様の周囲にも少なからず変化があったことと思います。春は始まりと出会いの季節だと、毎年感じます。人はもとより、制度や事業なども年度変わりすることが、そう感じさせるのでしょうか。

ちょうど一年前、京都DWA T(災害派遣福祉チーム)の一員として熊本県に派遣され、避難所支援を行いました。帰京してからは京都での災害対策の取り組みに関わるが増え、福祉避難サポートリーダー養成研修では普段接点の少ない小学校、保育園、障がい者施設職員や圏域外の行政の方々とは出会う機会がありました。また、ある自治会防災訓練に参加した際は、職場とは離れた地域の住民の方々と一緒に簡易トイレや段ボールベッドを作製し、要配慮者の受け入れ想定訓練や避難時のアドバイス等を行いました。私の実家の近くの自治会でしたが、その地域の住民の方と交流するのは初めてでした。

発災しないことが一番なのですが、京都府では取り組みを継続し、発災した後の対策をより深めていくと伺っております。災害時はもとより平時から、職場や児童・障がい・高齢といった制度や専門領域を横断したつながりが、地域支援には必要と感じます。介護支援専門員がそれに発揮できる能力は何か、出来る活動は何かを整理して、地域の一助になることができればと思います。

時代や制度は変わっていきますが、京都DWA Tとして同行したメンバーとの思いは、今後も変わらないと信じています。

(理事 村上 晶之)

京都ケアマネ・ポート54号

2017年5月1日発行

発行人：井上 基

編集委員長：西村 篤

広報部編集委員：柴田 崇晴 塚田 聡 村上 晶之 佐藤 弓子 中嶋 優 松本 善則 堀田 裕

発行元 公益社団法人 京都府介護支援専門員会

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375 京都府立総合社会福祉会館7階

TEL. 075-254-3970 FAX. 075-254-3971

E-mail: info@kyotocm.jp URL: http://kyotocm.jp/

京都銀行 府庁前支店 普通口座 4151049 シャ) キョウトフカイゴシエンセンモンインカイ